

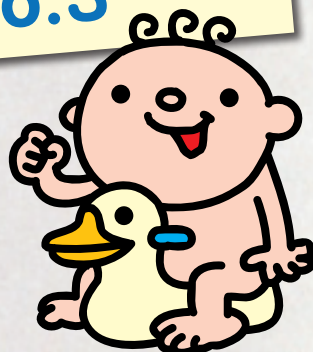
こころ の 健康

～思春期の心の悩みと病～

千葉県医師会 橘川 清人 医師



ルールが 守れない子ども No.3



子どもがルールを守れないときの対応についてお話ししてきました。しかし、そもそも子どもはなぜルールを守るようになるのでしょうか。お父さんお母さんに言われたから？ 守らないと叱られるから？ まわりから笑われるから？

しつけの原点に返って考えてみましょう。子どもが生まれて初めて「自分の意志でルールを守るようになる」とき。そうです、トイレ・トレーニングです。子どもはどうして「トイレでウンチをする」ようになるのでしょうか。通常は2～3歳でトレーニングを始めますね。そのプロセスを振り返ってみます。

まず、お母さんが「おしっこやウンチはトイレでできるようになるといいね」ということを教えます。ここでは「大好きなお母さんが」というところがポイントです。でも子どもはすぐにはトイレでしませんよね。なかなかオムツという特権を手放しません。ところがある時「自分で決めて」トイレにウンチをします。なぜでしょうか。トイレでしないと怒られるから、ではありませんね。トイレですと「大好きなお母さん」が喜んでくれるのです。満面に笑みをたたえて「いいウンチが出たね！ トイレでできたね！」と。（ウンチで喜んでもらえるのは、たぶんこの時だけです。）

つまり、子どもは罰がこわくてルールを守るようになるのではなく、ルールを守れることが誇らしくて守るのです。（お母さんが「ほめてくれる」より「喜んでくれる」ことの方が子どもには誇りです。だって大好きなお母さんを幸せにしたのですから。）罰を避けるために守られるルールは、罰がなくなると守られなくなります。

ところで先ほどの場面で、子どもは何を「自分で決めた」のでしょうか。

そうです。「いつするか」を決めたのです。お母さんは子どもが「自分で決めて」できるようになるまで「待った」のです。お母さんがじっと待ってくれたから、子どもは自分で決めることができたのです。「自分で決めて」しかも「大好きな人が喜んでくれる」のが誇りであり、喜びだから子どもはルールを守るようになるのです。

思春期の子どもでも、事情は基本的に同じです。親子が十分に気持ちを交換した上で、ルールを「一緒に決めて」、本人ができるようになるのを「待つ」。できたらともに喜ぶ。原点を忘れないようにしたいと思います。